

本社に新研究開発棟

醸造機械などを製造するフジワラテクノアート(岡山市北区富吉)は、新たな研究開発棟を本社敷地内に整備した。用途拡大が見込める粉体殺菌装置の開発や、バイオ技術を生かした新素材の研究を進める。ショールームの機能も備え、主力の食品分野以外での顧客開拓を目指す。(良田桃子)

フジワラテクノアート

名称は「みらい技術 行こう。同装置は国内外 採用されている。粉末開発センター」で、鉄の食品メーカーなどでの種類に応じて設定を骨2階延べ約630平方。1階では主に、加圧した水蒸気で粉末を殺菌する装置「ソニックステラ」の開発を



食品以外の顧客開拓

ショールーム機能も

細かく調整するため、顧客の意見を取り入れながらテストを重ねる必要があるという。

エントランスホールは一部をガラス張りとし、装置が動く様子を顧客に見てもらいながら打ち合わせできるようにした。大型プロジェクトを備え、映像で製品説明をしながら商談もできる。

2階には実験分析室を整備した。微生物の培養技術を応用し、バイオ新素材などの研究に取り組む。総事業費は2億3千万円。

藤原加奈副社長は「顧客とともに開発を進めやすい施設を目指した。気軽に見学に訪れてもらい、これまで接点の少なかった医薬品や化粧品などの分野にも力を入れていきたい」と話している。

フジワラテクノア

トは1933年創業、資本金3千万円、売上高48億3800万円(2020年12月期)、従業員141人。

(C) 山陽新聞社 無断複製・転載を禁じます。

フジワラテクノアートが新設した「みらい技術開発センター」

エントランスホールではガラス越しに装置が動く様子を確認できる